

小郡市同和問題市民講演会～7月は同和問題啓発強調月間です～

橋はかかる

～差別のない世の中を目指して～

「部落差別はなくなったのではないですか」という声を聞きます。これまでの特別対策事業の実施により生活環境などハード面では一定の成果が上がっています。しかしながら、いまだに差別落書き、土地調査差別や結婚差別など、部落差別は根深く残っています。

市では、同和問題啓発強調月間に合わせて市民講演会を開催します。お誘いあわせのうえご参加ください。



講師

村崎太郎さん
(猿まわし師)

村崎太郎さんプロフィール

17歳で初代次郎とコンビを結成し、日本に途絶えた猿まわしを復活。次郎の“反省”ポーズで全国的な人気者になる。1991年「文化庁芸術祭賞」を受賞。1992年にはアメリカ連邦議会から「日本伝統芸」の称号が授与される。2007年テレビプロデューサー栗原美和子さんと結婚。翌年、妻である栗原さん著の私小説「太郎が恋をする頃までには…」で、被差別部落出身であることを公表。09年には、自らが被差別部落に生まれ育った経験を執筆した「ボロを着た王子様」を出版。ここ数年は次郎と共に、日本各地を訪ねる出逢いの旅を続けている。2010年6月に夫婦共著で部落問題に関して新しい視点で言及した「橋はかかる」(全国学校図書館協議会選定図書)を出版。

日時

7月6日(土) 開場 午後1時30分～ 開演 午後2時～

会場

文化会館 大ホール

※託児あり。希望者は、7月3日(水)までに申込み。
※要約筆記・手話通訳あり

●問合せ先 人権・同和教育課 ☎72-2111内線532

福岡県同和問題啓発 強調月間講演会

●問合せ先
福岡県人権啓発情報センター
☎092-584-1271

- 日時 7月20日(土)
午後1時30分～4時20分
- 会場 クローバープラザ大ホール
(春日市原町3丁目1-7)

テーマ「つながりをもとめて」

第1部

講演(午後1時35分～3時5分)
演題 「ぬくもりを感じて」
講師 中倉茂樹さん
(徳島県人権エンタメ集団『友輝』)

第2部

映画上映(午後3時20分～4時20分)
「三月三日の風～水平社誕生物語～」

◆同和問題啓発強調月間とは

昭和40(1965)年に同和対策審議会答申が出され、昭和44(1969)年に「同和対策特別措置法」が施行されて、同和問題の解決に向けた取組みが進められました。

しかし、その後も差別事件等は後を絶ちませんでした。

このため、福岡県では昭和56(1981)年から毎年7月(「同和対策特別措置法」が施行された月)を同和問題啓発強調月間と定め、差別をなくすための啓発活動を実施しています。

私たちは、誰もが幸せに暮らしたいと願っています。この願いは、誰も侵すことのできない基本的人権として憲法で保障されています。

しかし、私たちの身の回りには、本人にはまったく責任のないことで、これらの権利が不当に制限されたり、奪われたりしている現実があります。

なかでも同和問題は、今なお存在している重大な人権問題です。この問題は、私たち自身の力で必ず解決しなければなりません。

江口いとさんの詩「人の値うち」は、ご存知の人も多いと思います。

無意識の中にあるかもしれない自分の決めつけたものの見方、偏見、差別意識を、今一度問い直してみませんか？

人の値うち

江口いと

何時(いつ)かもんべをはいて
バスに乗ったら
隣座席の人は私を
おばはんと呼んだ

戦時中よくはいた
この活動的なものを
どうやらこの人は年寄りの
着物と認めているらしい

よそ行きの着物に羽織を着て
汽車に乗ったら
人は私を奥さんと呼んだ
どうやら人の値うちは
着物で決まるらしい

講演がある
何々大学の先生だと言えば
内容が悪くとも
人々は耳を澄ませて聴き
良かったと言う
どうやら人の値うちは
肩書きで決まるらしい

名も無い人の講演には
人々はそわそわして帰りを急ぐ
どうやら人の値うちは
学歴で決まるらしい

立派な家の娘さんが
部落にお嫁に来る
でも生まれた子供はやっぱり
部落の子だと言われる
どうやら人の値うちは
生まれた所によって決まるらしい

人々はいつの日
このあやまちに気付くであらうか

